

### 3 死亡

#### (1) 死亡数・死亡率

平成 14 年の死亡数は 98 万 2371 人で、前年の 97 万 331 人より 1 万 2040 人増加し、死亡率（人口千対）は、7.8 で、前年の 7.7 を上回った。

昭和 30 年以降は 70 万人前後で推移していたが、平成 2 年以降は 80 万人以上となり、9 年以降は 90 万人を超えている。

昭和 20 年代に多かった 0～14 歳の死亡数が減少し、近年は人口の高齢化を反映して 75 歳以上の死亡数の増加が目立つ。

年齢（5 歳階級）別に死亡率（人口 10 万対）をみると、ほとんどの年齢階級で前年より低下している。

死亡率性比（男の死亡率／女の死亡率×100）を年齢（5 歳階級）別にみると、全年齢階級で 100 以上となっており、男の死亡率が高いことを示している。特に 15～29 歳、45～79 歳では男の死亡率が女の死亡率の 2 倍以上になっている。（図 4，表 6）

図4 死亡数及び死亡率の年次推移

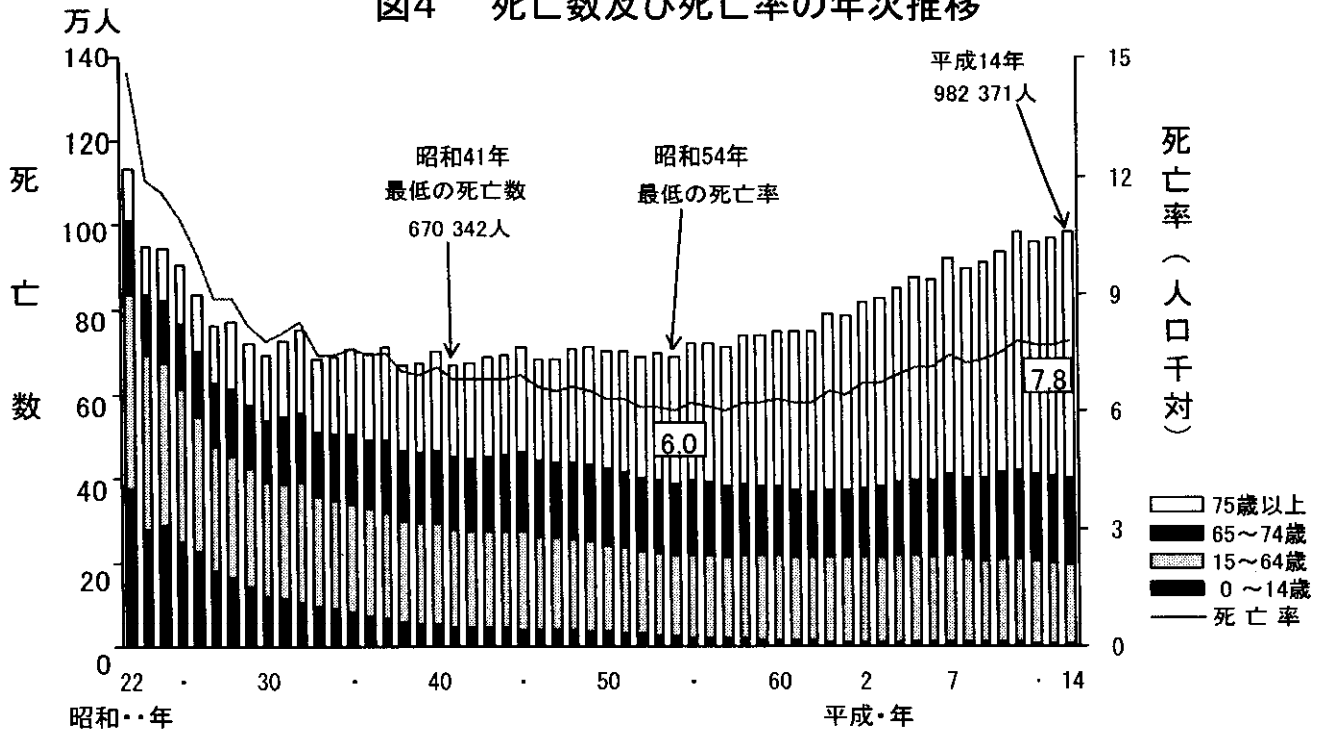


表6 年齢（5歳階級）別にみた死亡数・死亡率（人口10万対）・死亡率性比

年齢階級	死亡数			死亡率			死亡率性比 <sup>2)</sup>
	平成14年	平成13年	対前年増減	平成14年	平成13年	対前年増減	平成14年
1) 総数	982 371	970 331	12 040	779.6	770.7	8.9	125.2
0～4歳	4 745	4 936	△ 191	81.6	84.5	△ 2.9	113.5
5～9	730	709	21	12.3	11.9	0.4	122.7
10～14	644	651	△ 7	10.4	10.3	0.1	143.5
15～19	2 190	2 313	△ 123	30.8	31.8	△ 1.0	224.5
20～24	3 467	3 666	△ 199	44.3	45.6	△ 1.3	233.1
25～29	4 416	4 712	△ 296	47.8	49.5	△ 1.7	215.6
30～34	5 782	5 626	156	62.2	61.6	0.6	193.8
35～39	6 958	7 063	△ 105	85.9	90.0	△ 4.1	188.4
40～44	10 114	10 180	△ 66	131.7	133.2	△ 1.5	199.4
45～49	17 009	18 336	△ 1 327	211.0	217.3	△ 6.3	200.3
50～54	36 604	37 795	△ 1 191	347.5	345.3	2.2	213.9
55～59	43 421	43 460	△ 39	504.7	525.2	△ 20.5	232.5
60～64	58 667	58 790	△ 123	727.8	746.2	△ 18.4	236.4
65～69	85 286	87 413	△ 2 127	1 161.1	1 205.9	△ 44.8	238.9
70～74	116 974	116 928	46	1 889.4	1 935.9	△ 46.5	234.7
75～79	140 944	135 711	5 233	3 027.1	3 074.6	△ 47.5	209.4
80～84	147 734	145 956	1 778	5 192.8	5 383.8	△ 191.0	187.9
85～89	152 141	150 967	1 174	9 198.4	9 423.7	△ 225.3	165.8
90歳以上	143 868	134 440	9 428	16 846.4	17 414.5	△ 568.1	137.3

注：1) 総数には年齢不詳を含む。

2) 死亡率性比=男の死亡率/女の死亡率×100（性別死亡率は統計表第4表参照）

## (2) 死因

### ① 死因順位

平成14年の死亡数を死因順位別にみると、第1位は悪性新生物で30万4286人、死亡率（人口10万対）241.5、第2位は心疾患15万2398人、120.9、第3位は脳血管疾患12万9589人、102.8となっている（表7）。

主な死因の年次推移をみると、悪性新生物は一貫して上昇を続け、昭和56年以降死因順位第1位となり、全死亡者に占める割合も平成14年は前年と同じ31.0%となっている。全死亡者のおよそ3人に1人は悪性新生物で死亡したことになる。

心疾患は昭和60年に脳血管疾患にかわり第2位となり、その後も死亡数・死亡率とも上昇傾向を示している。平成14年の全死亡者に占める割合は15.5%となっている。

脳血管疾患は昭和26年に結核にかわって第1位となったが、45年をピークに低下しはじめ、56年には悪性新生物にかわり第2位に、更に、60年には心疾患にかわり第3位となりその後も死亡数・死亡率とも低下を続けた。全死亡者に占める割合は13.2%となっている。（図5、図6）

図5 主な死因別死亡数の割合(平成14年)

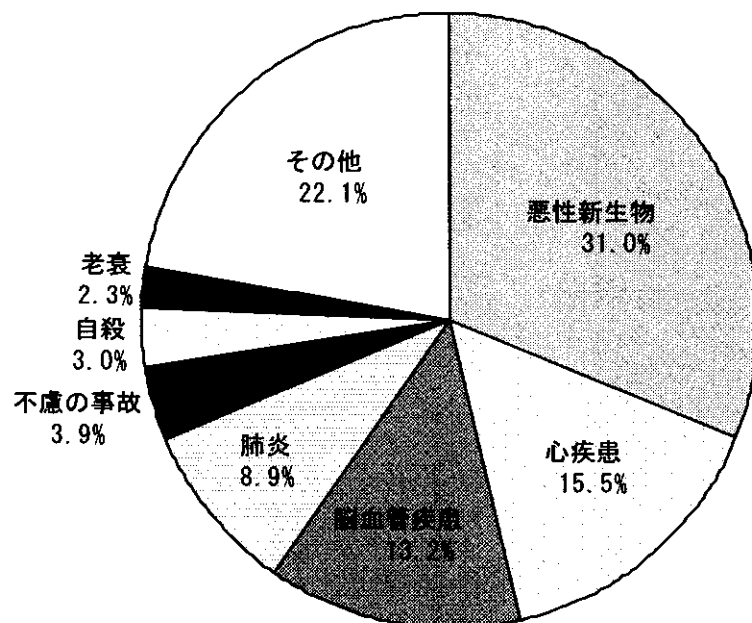
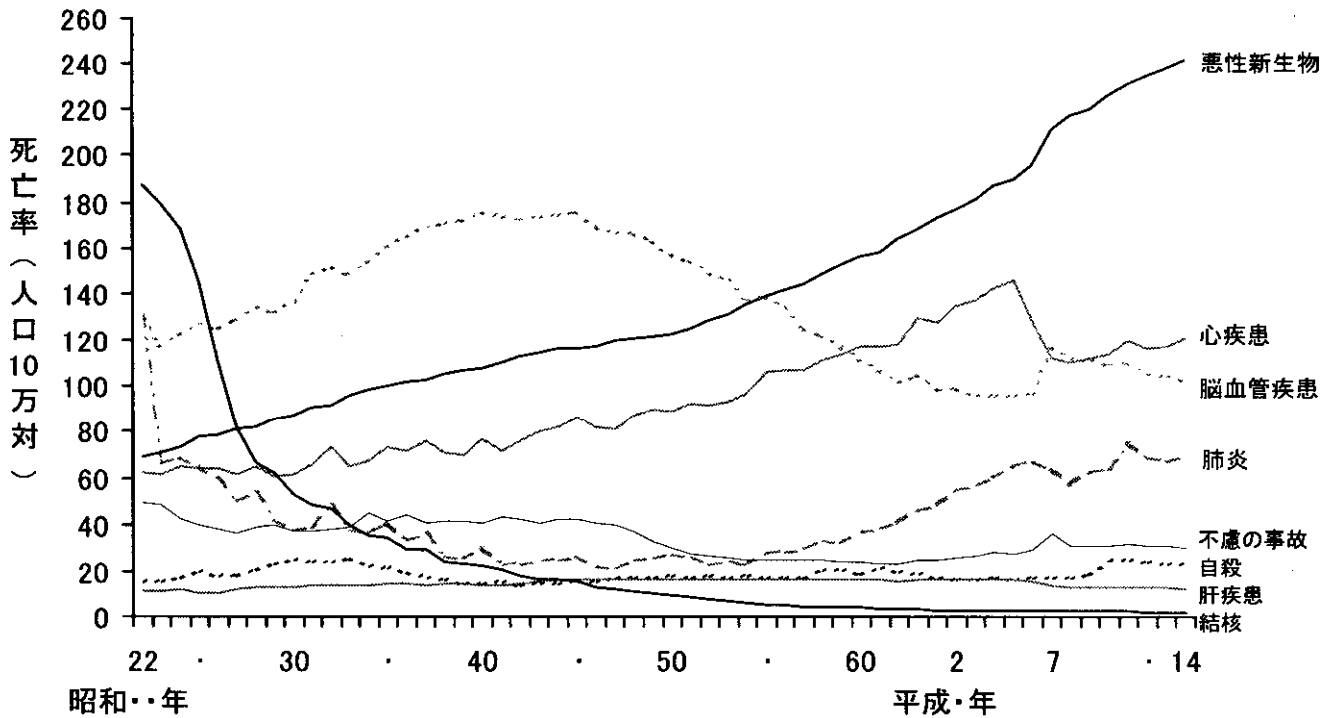


表7 性別にみた死因順位別死亡数・死亡率（人口10万対）

死 因	平成14年						平成13年	
	総 数		男		女		総 数	
	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
全 死 因	982 371	779.6	535 323	869.2	447 048	694.0	970 331	770.7
悪 性 新 生 物 (1)	304 286	241.5	183 849	298.5	120 437	187.0	300 658	238.8
心 疾 患 (2)	152 398	120.9	74 906	121.6	77 492	120.3	148 292	117.8
脳 血 管 疾 患 (3)	129 589	102.8	61 894	100.5	67 695	105.1	131 856	104.7
肺 炎 (4)	87 385	69.3	47 013	76.3	40 372	62.7	85 305	67.8
不 慮 の 事 故 (5)	38 593	30.6	24 268	39.4	14 325	22.2	39 496	31.4
自 殺 (6)	29 920	23.7	21 658	35.2	8 262	12.8	29 375	23.3
老 衰 (7)	22 675	18.0	6 209	10.1	16 466	25.6	22 145	17.6
腎 不 全 (8)	18 171	14.4	8 417	13.7	9 754	15.1	17 690	14.0
肝 疾 患 (9)	15 465	12.3	10 516	17.1	4 949	7.7	15 848	12.6
慢性閉塞性肺疾患 (10)	13 014	10.3	9 783	15.9	3 231	5.0	13 069	10.4

注：1）（ ）内の数字は死因順位を示す。  
 2）男の10位は「糖尿病」で死亡数は6 622、死亡率は10.8である。  
 3）女の9位は「糖尿病」で死亡数は5 999、死亡率は9.3である。  
 4）「結核」は死亡数が2 316、死亡率は1.8で第25位となっている。

図6 主な死因別にみた死亡率の年次推移



注：1）平成6・7年の心疾患の低下は、死亡診断書（死体検案書）（平成7年1月施行）において「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」という注意書きの施行前からの周知の影響によるものと考えられる。  
 2）平成7年の脳血管疾患の上昇の主要要因は、ICD-10（平成7年1月適用）による原死因選択ルールの明確化によるものと考えられる。

## ② 年齢別死因

平成14年の死因を性・年齢（5歳階級）別に構成割合で見ると、5～14歳では不慮の事故及び悪性新生物が、15～19歳及び20歳代では不慮の事故及び自殺が多い。30歳代からは、年齢が高くなるにしたがって、悪性新生物の占める割合が多くなり、男では60歳代で、女では40歳代及び50歳代でピークとなる。それ以降は男女とも心疾患、脳血管疾患、肺炎の占める割合が、年齢が高くなるとともに多くなる。（図7-1）

また、1歳未満の乳児死亡数の死因別構成割合をみると、先天奇形、変形及び染色体異常の占める割合が多い（図7-2）。

図7-1 性・年齢階級別にみた主な死因の

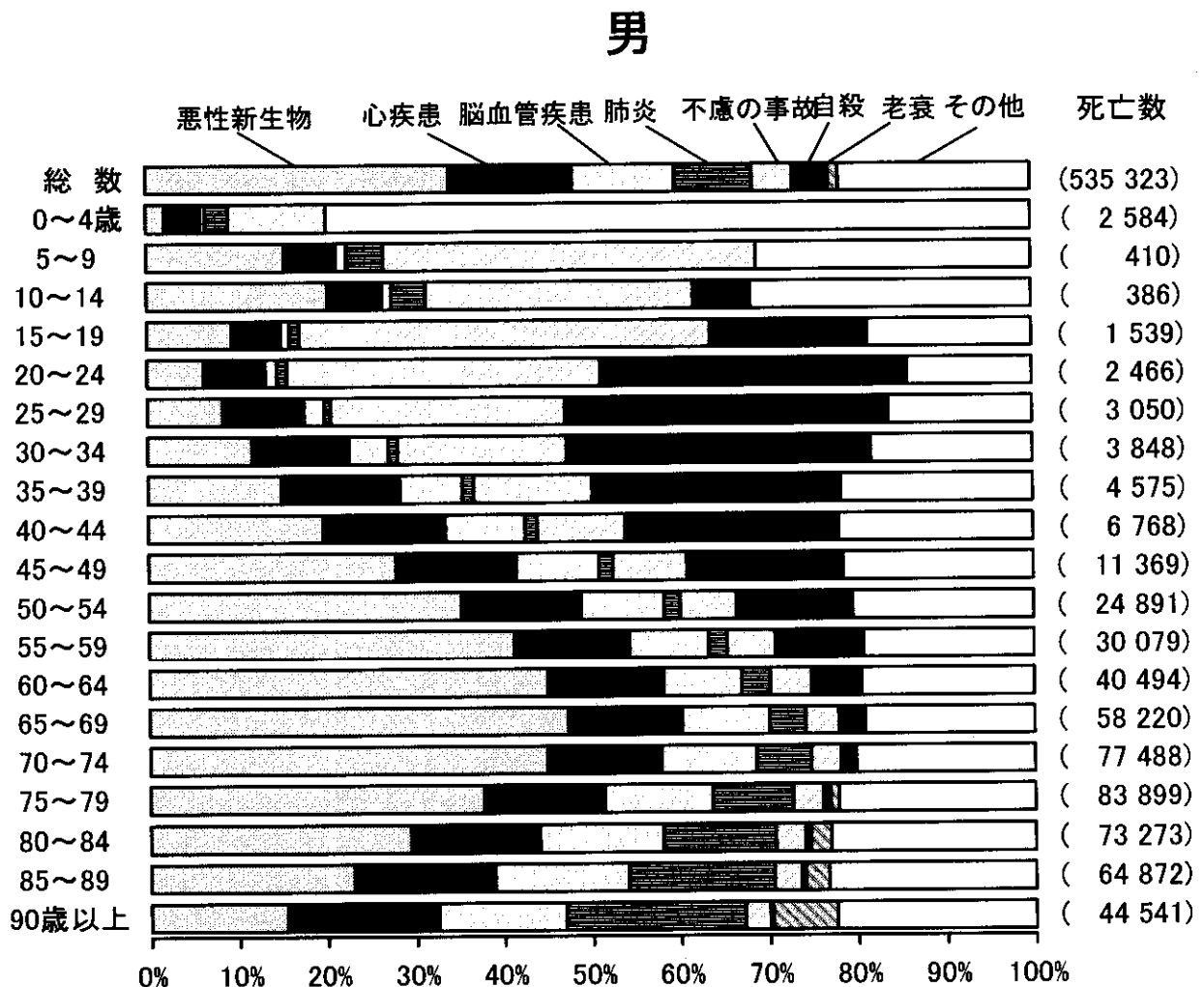
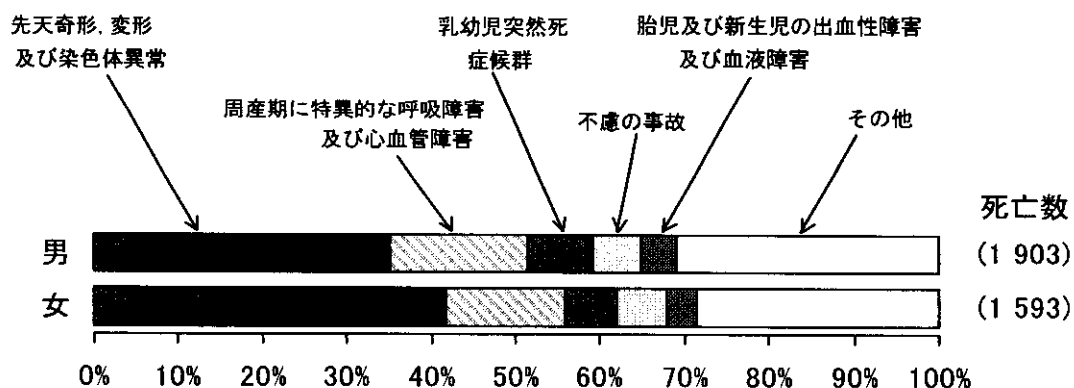
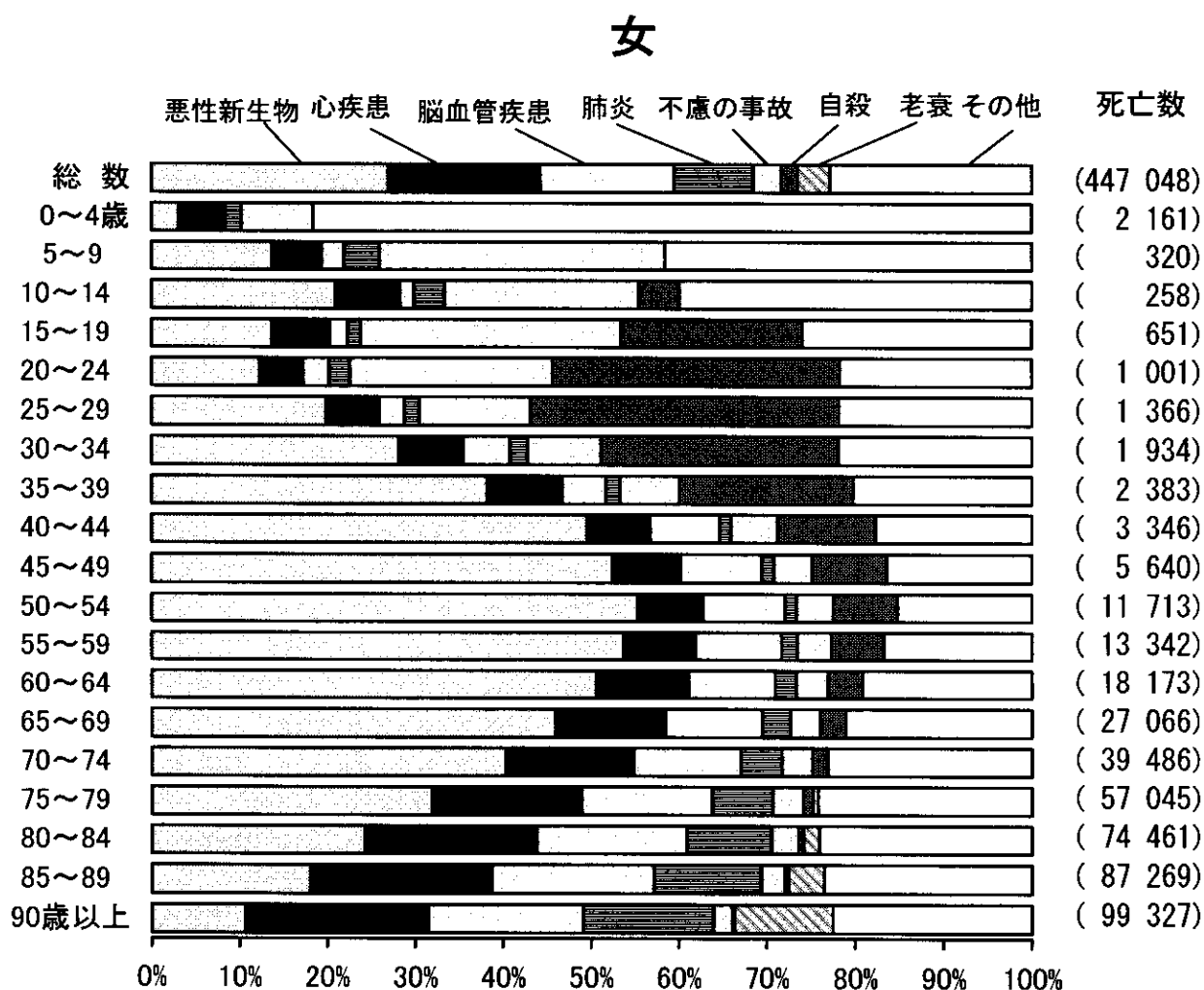


図7-2 乳児死亡の主な死因の構成割合(平成14年)



構成割合(平成14年)



### ③ 部位別にみた悪性新生物

悪性新生物について死亡数・死亡率を部位別にみると、男の「肺」の上昇傾向が顕著で、平成5年に初めて「胃」を上回り、14年にはその差が、死亡数で9349人、死亡率（人口10万対）で15.2に拡大した（表8、図8）。

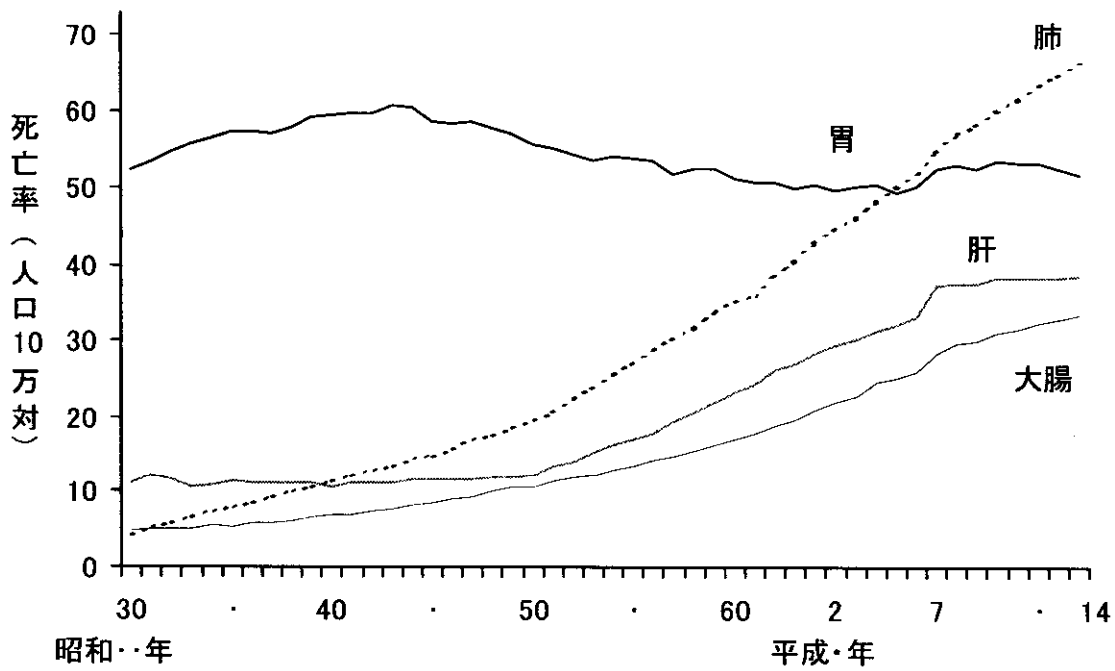
表8 悪性新生物の主な部位別にみた死亡数・死亡率（人口10万対）の年次推移

部位	昭和30年	40	50	60	平成7年	13	14
男	死 亡 数						
胃	22 899	28 636	30 403	30 146	32 015	32 267	31 766
肝	4 877	5 006	6 677	13 780	22 773	23 596	23 798
肺	1 893	5 404	10 711	20 837	33 389	39 904	41 115
大腸 <sup>1)</sup>	2 079	3 265	5 799	10 112	17 312	20 265	20 550
女	死 亡 率						
胃	14 407	17 749	19 454	18 756	18 061	17 691	17 408
肝	3 700	3 499	3 696	5 192	8 934	10 715	10 817
肺	818	2 321	4 048	7 753	12 356	15 130	15 250
乳房	1 572	1 966	3 262	4 922	7 763	9 654	9 599
子宮	7 289	6 689	6 075	4 912	4 865	5 200	5 306
大腸 <sup>1)</sup>	2 160	3 335	5 654	8 926	13 962	16 682	17 085
男	死 亡 率						
胃	52.2	59.4	55.6	51.1	52.6	52.4	51.6
肝	11.1	10.4	12.2	23.3	37.4	38.3	38.6
肺	4.3	11.2	19.6	35.3	54.8	64.8	66.8
大腸 <sup>1)</sup>	4.7	6.8	10.6	17.1	28.4	32.9	33.4
女	死 亡 率						
胃	31.7	35.5	34.4	30.6	28.5	27.5	27.0
肝	8.1	7.0	6.5	8.5	14.1	16.7	16.8
肺	1.8	4.6	7.2	12.7	19.5	23.5	23.7
乳房	3.5	3.9	5.8	8.0	12.2	15.0	14.9
子宮	16.0	13.4	10.7	8.0	7.7	8.1	8.2
大腸 <sup>1)</sup>	4.8	6.7	10.0	14.6	22.0	25.9	26.5

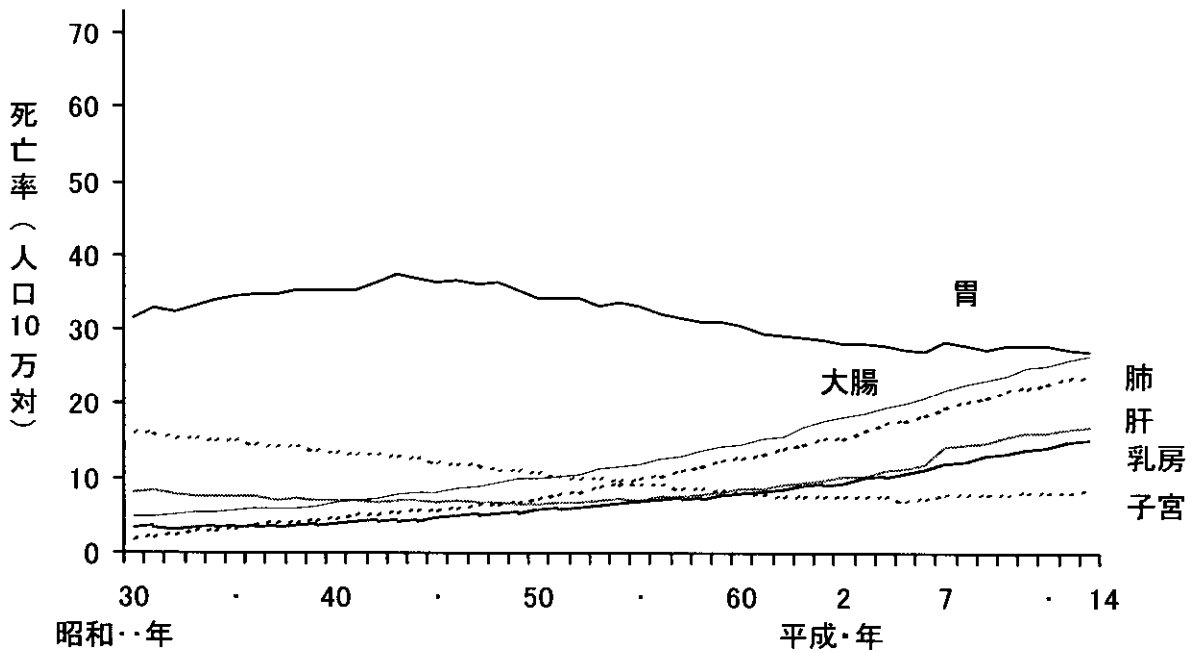
注：1) 大腸の悪性新生物は、結腸と直腸S状結腸移行部及び直腸を示す。

図8 悪性新生物の主な部位別死亡率の年次推移

男



女





## 4 婚姻

平成14年の婚姻件数は75万7331組で、前年の79万9999組より4万2668組減少し、婚姻率（人口千対）は6.0で、前年の6.4を下回った。

婚姻件数は昭和40年代後半には100万組を超え、婚姻率（人口千対）も10.0以上で、婚姻ブームを呈した。その後は、組数・率とも減少していたが、63年以降は増加傾向となり、平成5年以降は、ほぼ横ばいに推移している（図9）。

平成14年の平均初婚年齢は、夫29.1歳、妻27.4歳で、前年より夫は0.1歳、妻は0.2歳上昇しており、特に妻は平成4年以降上昇し続けている（表9）。

初婚の妻の年齢（各歳）別婚姻件数の構成割合を10年ごとにみると、ピーク時の割合は少なくなり、ピークより高い年齢の割合が増加している（図10）。

再婚の割合をみると、平成14年は夫は16.3%、妻は14.8%で、昭和50年と比べると夫7.2ポイント、妻7.3ポイント増加している（表10）。

都道府県別にみると、平均初婚年齢が最も低いのは、夫は徳島県、宮崎県で28.2歳、妻は福島県で26.4歳であり、最も高いのは夫・妻とも東京都で、夫30.5歳、妻28.4歳である（表11）。

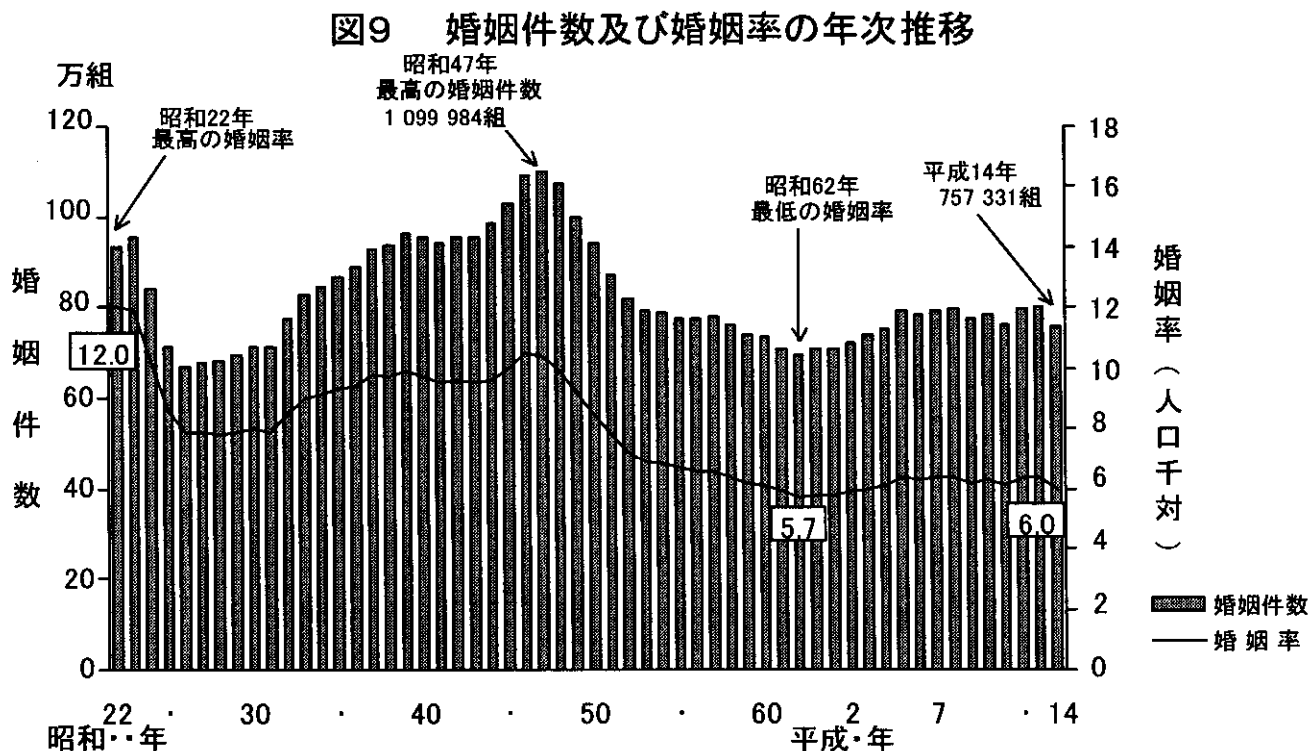
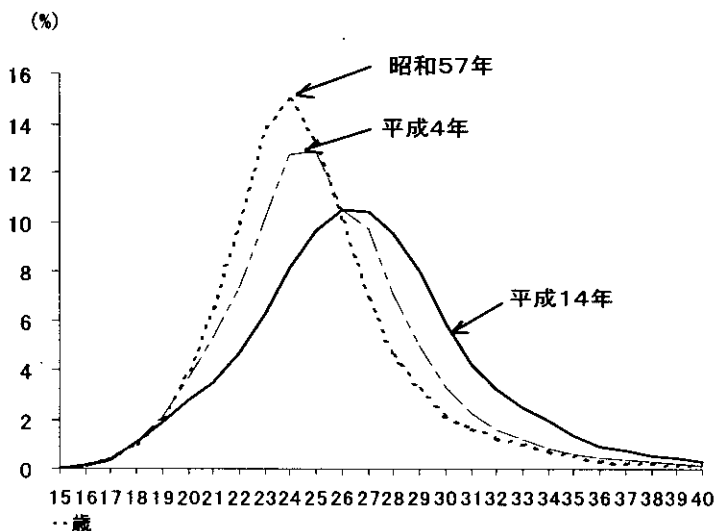


表9 平均婚姻年齢の年次推移

	全 婚 姻		初 婚	
	夫	妻	夫	妻
	歳	歳	歳	歳
昭和50年	27.8	25.2	27.0	24.7
55	28.7	25.9	27.8	25.2
60	29.3	26.4	28.2	25.5
平成2年	29.7	26.9	28.4	25.9
3	29.6	26.9	28.4	25.9
4	29.7	27.0	28.4	26.0
5	29.7	27.1	28.4	26.1
6	29.8	27.2	28.5	26.2
7	29.8	27.3	28.5	26.3
8	29.9	27.5	28.5	26.4
9	29.9	27.6	28.5	26.6
10	30.0	27.7	28.6	26.7
11	30.2	27.9	28.7	26.8
12	30.4	28.2	28.8	27.0
13	30.6	28.4	29.0	27.2
14	30.8	28.6	29.1	27.4

注：各届出年に結婚生活に入ったもの。

図10 初婚の妻の年齢(各歳)別婚姻件数割合



注：各届出年に結婚生活に入ったもの。

表10 全婚姻件数に対する再婚件数の割合の年次推移

	夫	妻
	%	%
昭和50年	9.1	7.5
55	10.8	9.5
60	12.2	10.8
平成2年	13.4	11.7
7	13.2	11.6
8	13.6	12.1
10	13.9	12.4
11	14.4	12.8
12	15.0	13.4
13	15.7	14.0
14	16.3	14.8

表11 都道府県別にみた平均初婚年齢

都 道 府 県	平成14年	
	夫	妻
	歳	歳
全 国	29.1	27.4
北 海 道	28.5	27.1
青 森 県	28.5	26.7
岩 手 県	28.6	26.6
宮 城 県	28.7	26.9
秋 田 県	28.4	26.7
山 形 県	28.9	26.8
福 島 県	28.5	26.4
茨 城 県	29.0	27.0
栃 木 県	28.9	27.0
群 馬 県	29.0	27.1
埼 千 東 神 奈 川 新 潟	29.4	27.5
埼 千 東 神 奈 川 新 潟	29.5	27.5
埼 千 東 神 奈 川 新 潟	30.5	28.4
埼 千 東 神 奈 川 新 潟	29.9	28.0
埼 千 東 神 奈 川 新 潟	29.1	27.1
富 山 県	28.8	27.0
石 川 県	28.5	27.0
福 山 県	28.6	26.9
山 梨 県	29.5	27.4
山 梨 県	29.5	27.4
岐 静 愛 三 滋	28.7	26.9
岐 静 愛 三 滋	29.1	27.2
岐 静 愛 三 滋	29.1	27.2
岐 静 愛 三 滋	28.6	26.9
岐 静 愛 三 滋	28.8	27.0
京 大 兵 奈 和 歌	29.2	27.6
京 大 兵 奈 和 歌	29.2	27.6
京 大 兵 奈 和 歌	29.1	27.4
京 大 兵 奈 和 歌	29.1	27.3
京 大 兵 奈 和 歌	28.5	26.9
鳥 島 岡 山	28.5	26.8
鳥 島 岡 山	28.7	26.9
鳥 島 岡 山	28.5	26.8
鳥 島 岡 山	28.6	27.1
鳥 島 岡 山	28.4	26.8
徳 香 愛 高 福	28.2	26.6
徳 香 愛 高 福	28.4	26.7
徳 香 愛 高 福	28.3	26.9
徳 香 愛 高 福	28.5	27.1
徳 香 愛 高 福	28.8	27.4
佐 長 熊 大 宮	28.5	26.9
佐 長 熊 大 宮	28.5	27.1
佐 長 熊 大 宮	28.3	26.9
佐 長 熊 大 宮	28.4	27.1
佐 長 熊 大 宮	28.2	26.9
鹿 児 島 沖 縄	28.5	27.0
鹿 児 島 沖 縄	28.6	27.0

注：平成14年に結婚生活に入ったもの。

## 5 離婚

平成14年の離婚件数は28万9838組で、前年の28万5911組より3927組増加した。離婚件数は昭和39年以降毎年増加し、46年には10万組を超えた。その後も増加を続け、58年をピークに減少に転じたが、平成3年から再び増加している（図11）。

離婚率（人口千対）は2.30で、前年の2.27を上回り、離婚件数とともに明治32年以降最高となった（統計表第2表）。

離婚件数を同居期間別にみると、10年未満で前年より減少しているが、10年以上では増加している（表12、図12）。

図11 離婚件数及び離婚率の年次推移

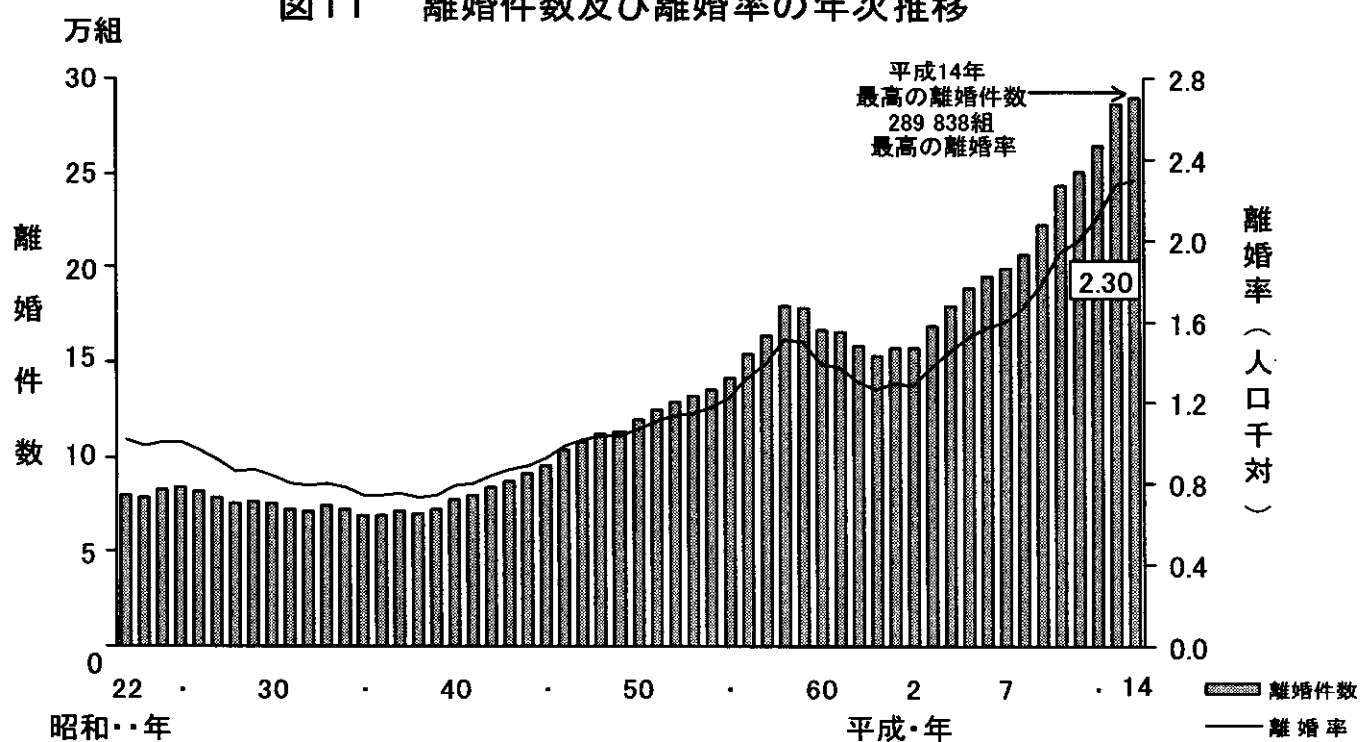


表 1 2 同居期間別離婚件数の年次推移

同居期間	昭和50年	60	平成7年	13	14	対前年 増 減	対前年 増加率 (%)
1) 総 数	119 135	166 640	199 016	285 911	289 838	3 927	1.4
5年未満	58 336	56 438	76 710	102 833	99 684	△3 149	△ 3.1
1年未満	14 773	12 655	14 893	18 422	18 369	△ 53	△ 0.3
1～2	13 014	12 815	18 081	23 167	22 805	△ 362	△ 1.6
2～3	11 731	11 710	16 591	22 390	21 596	△ 794	△ 3.5
3～4	10 141	10 347	14 576	20 601	19 419	△1 182	△ 5.7
4～5	8 677	8 821	12 569	18 253	17 495	△ 758	△ 4.2
5～10	28 597	35 338	41 185	65 155	64 478	△ 677	△ 1.0
10～15	16 206	32 312	25 308	36 855	39 032	2 177	5.9
15～20	8 172	21 529	19 153	26 195	27 300	1 105	4.2
20年以上	6 810	20 435	31 877	42 992	45 536	2 544	5.9
20～25年未満	4 050	12 706	17 847	19 021	20 417	1 396	7.3
25～30	1 894	4 827	8 684	13 363	13 531	168	1.3
30～35	566	1 793	3 506	6 318	6 969	651	10.3
35年以上	300	1 109	1 840	4 290	4 619	329	7.7

注：1)総数には同居期間不詳を含む。

図12 同居期間別離婚件数の年次推移

